

生活習慣病対策関連データ（特定健康診査・特定保健指導データ）を使用した研究

特定健康診査（特定健診）は、40~74歳（実施年度中に75歳になる者も含む）の保険加入者を対象として、2008年4月より全国の市町村で導入された、年一回実施される健康診断である。特にメタボリックシンドロームに着目し、その該当者あるいは予備軍と診断された人々に対しては、特定保健指導と呼ばれる、生活習慣の改善に向けたサポートが実施される。この特定健診および特定保健指導のデータを用いて、特定保健指導による介入効果の解析や、都道府県別の健康状態およびその改善度の比較などが可能である。特に、特定健診および特定保健指導では全国統一の様式で多量のデータが蓄積されていることから、精度の高い実情や課題の把握が可能であると考えられる。本抄読会では、今回使用する予定のデータの概要および先行研究について紹介する。

参考文献

- 石川善樹, 今井博久, 中尾裕之, 齋藤聡弥, 福田吉治. 特定保健指導の予防介入施策の効果に関する研究: 大規模データベースを使用した傾向スコアによる因果分析. 厚生指標 2013; 60(5): 1-6.
- 蔦谷 裕美, 舟本 美果, 杉山 大典, 桑原 和代, 宮松 直美, 渡辺 浩一, 岡村 智教. 特定健康診査における標準的な質問票の生活習慣項目とメタボリックシンドローム, 高血圧発症との関連: 5年間の追跡調査. 日本公衆衛生雑誌 2017; 64(5): 258-269.
- 津下一代, 村本あき子. 特定健診・特定保健指導の現状と今後の課題. 日本臨床 2011; 69: 723-728.
- 今井博久. 特定保健指導プログラムの成果を最大化及び最適化する保健指導介入方法に関する研究. 平成20年度~22年度総合研究報告書 2011.
- 福田吉治. 特定保健指導の評価(2): 国保データによる準実験デザインを用いて. 日本衛生学雑誌 2011; 66: 736-740.